

みくびだより



御挨拶

謹啓 御首の杜も深緑に囲まれ、新しい息吹きが感じられる季節となりましたが、皆様方に於かれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

去る三月二十四日、天皇・皇后両陛下におかせられては愛知万博の開会式に御臨席賜り、天皇陛下より「人類が自然に及ぼす影響に世界の人々の関心が深まっています。この動きを更に高め、地球温暖化や自然災害への諸問題に対処していくことが不可避の課題となっています。愛・地球博へ世界各地から訪れる人々に、人類と自然の関わりについての理解を一層深め、世界人類が手を携えて地球の環境を保つよう努力する契機となれば誠に喜ばしい」との由のお言葉を賜りました。

昨今地球環境が問題になっております中「愛は地球を救う」を合言葉に、「愛・地球博」が盛り上がりを見せておりますが、この万博を機に世界の人々が心と心を繋ぎ、力と力を協わせ、この地球が万世不変で、次世代の人類が平和で安心して生活出来る、住みよい地球環境づくりに向かって邁進して頂きたいものであります。

又、平成二十五年に執り行われます、第六十二回神宮式年遷宮に際し、天皇陛下の思召しにより式年遷宮の御用材を伐り出す御杣山ならびに遷宮諸祭の始まりにあたる山口祭、みそまやま
このもとさき

木本祭の日時を御治定遊ばされました。今回の御治定によりいよいよ神宮式年遷宮に向けた活動が本格化し、諸祭儀が開始される運びとなりました。当県では御樋代木（御神木）が六月五日〜八日に渡り岐阜県内を奉搬され、各所で奉迎送の神事が奉仕されました。今回の遷宮が立派に齊行されますよう皆様方の赤誠のご奉賛をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方に於かれましては、御首大神様の御神徳を漏れなく戴かれまして、益々の御健勝と御多幸を心より祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

御首神社ホームページ
神職への質問FAQ

去る平成十二年八月にホームページを開設以来、今夏で五年目を迎え、閲覧者の数も五万人を超えております。

また、ホームページ開設当初よりメニュー画面には、御首神社神職への質問FAQ（頻繁に尋ねられる質問とその解答）を設けておりますが、その質問も既に二百件を数え、閲覧の興味深さに驚く次第です。

従って、寄せられました数ある質疑と回答の中から、関心の多い事項を中心に取り纏め社報にて紹介させて頂く事となりました。

神棚へのお供えについて
お答えします

問 神棚へのお供え(お酒・洗米・お水・塩)はいつお上げして、お下げしますか？

答 本来は、毎朝お供えをされ、夕刻に一日の感謝のお参り後にお下げします。

問 お供えは何でも良いのでしょうか。又、避けた方が良い物もありますか？

答 一般的に、お酒・洗米・お水・塩をお供えされる方が多いようです。季節(子供の日)柏餅にちまき・お正月(鏡餅など)の初物をはじめ、野菜やお土産等もお供えされると良いでしょう。しかし、臭気の強い野菜は適さないとされています。

問 お供えは「朔日・十五日だけ」とか「お正月だけ」とも聞きますがそれは何故？

答 「朔日・十五日だけ」とは恐らく神社の月次祭(月二回のお祭り)にあわせるという意味か、また「お正月だけ」とは年の初めに、また一年に一度は・・・と言う意味があるのかもしれませんが。基本的にお供えは毎日上げ下げするのが本義です。

問 お下げしたお供え(お酒・洗米・お水・お塩)はどうしたら良いのでしょうか？

答 神棚からお下げしました神饌は、神様の「お下がり」として感謝の気持ちを込めて御家族で召し上がるのが最も良いです。それには神様のお力をいただく、そんな意味があります。ですから粗末になさらず、傷



まないうちに食べられるのが良いかと存じます。洗米は炊飯時に混ぜられるとよいです。

問 神棚に載らないお供えを、棚下の畳の上に並べお供えしてはいますがこれでいいでしょうか？

答 畳(床)に直に置かれるのではなく、台を用意し、その上に置いて下さい。その際に白い布を掛けられると尚一層丁寧な置き方と言えます。直に置くのは人の足が接する(踏む)所で失礼にあたります。

纏め 初回は自宅での神棚へのお供えの上げ下げの時期・内容・お下げしたお供えの対処についてご紹介しました。各ご家庭毎に出来る範囲で、理想の形に近づけるよう取り組まれることがなによりです。必ずや神様のお護りを戴かれることでしょう。

祝詞について

「のりと」と云う言葉を耳にされると大半の方が、掛けまくも畏き・・・と言つて神主が神前で申し上げる姿を想像されるように、祝詞は普通神職が神様に申し上げる詞を云いご神徳を讃えたり、崇敬者に益々のご神徳を戴くように祈願をするもので、古くは「宣言」とも言っていました。現在は神前で奏上する詞となっていますが、昔は神さまから賜った「みことのり」で神の意思を神官が代わつて宣り聞かせたものです。これを宣命体と云つて文章の終わりは「・・・と宣る」という形をとります。又、特に祝意の強いものを「寿詞」と云い、文章の終わりは「・・・申す」と云う形になり、これを奏上体と云います。現在全国の神社では御神徳に対しての感謝と崇敬者の切なる願望を申し上げる為に「・・・申す」と云う形をとっています。

祝詞の起源は古く、古事記・日本書紀の天岩屋戸の件に天児屋命が「布刀詔戸言」を奏した事が記されています。

上代の祝詞・寿詞が現存するのは平安初期の延喜式(全二十七卷)の内の巻八に収められたものであり、その内容は祭りの由来・神話・ご神徳を語り、幣帛を献つて祈願をする主旨を述べることを主眼としています。

神社では数多くの祭りで儀式を行います。祝詞はその式次第の中で最も重要で、かつ庄重な儀式であります。又、その内容も非常に

多岐に亘っていますが、それぞれの祭りに相応しい祝詞文を作成する為に神職は絶えず努力し、研鑽を積まなければ神さまのご神徳を戴き、崇敬者に感動を与えることは難しいと云えましょう。

当神社は首上の諸病には特にご神徳が高く全国から多数の崇敬者が毎日ご祈禱を受けに来られます。従つて近年は祈願の内容も巾広くなり、首上に限らず体全部に關しての祈願や、精神面での悩み事でご祈禱を受けられる人々もございます。当神社の職員はそれぞれのご祈願に対し、参拝者の切なる気持ちをおみ取りまして祈願に相応しい祝詞を作成し、誠心誠意ご神前で祝詞奏上致しております。一人でも多く御首の大神さまのご神徳を受けられ、幸福な家庭を築かれますようご祈念致します。



御首神社
大幟奉納者御芳名

- | | | | |
|--------|-----|--------|-----|
| 大垣市 加代 | 敏男殿 | 大垣市 佐藤 | 弘幸殿 |
| 大垣市 佐竹 | 千代殿 | 安八郡 荒川 | 良夫殿 |
| 大垣市 笠 | 竜男殿 | 滋賀県 箕浦 | 敏信殿 |
| 大垣市 戸田 | 清殿 | | |



本年は右記の方より各一對ご奉納いただきました。大幟は一年間参道に掲揚致します。

末廣稻荷神社
参道のぼり奉納者御芳名

- | | | | |
|--------|------|---------|------|
| 不破郡 田中 | 仁浩殿 | 揖斐郡 石田 | 晴行殿 |
| 大垣市 服部 | 幸子殿 | 大垣市 松岡 | 寿殿 |
| 名古屋 安藤 | 英明殿 | 名古屋 金丸 | 道代殿 |
| 木曾川 吉村 | 栄子殿 | 養老郡 長澤 | 和生殿 |
| 揖斐郡 衣斐 | 久雄殿 | 大垣市 笠 | 芳子殿 |
| 養老郡 桐山 | 武男殿 | 大垣市 山本 | 光正殿 |
| 江南市 青山 | 春雄殿 | 尾西市 岩越 | 宏益殿 |
| 尾西市 伊藤 | 豊和殿 | 羽島郡 林 | 武成殿 |
| 名古屋 秋田 | 欣弥殿 | 瑞穂市 武藤 | ふみ子殿 |
| 名古屋 伊藤 | 十三子殿 | 大垣市 日比野 | 光春殿 |
| 養老郡 桐山 | 武男殿 | 岐阜市 大野 | 晃平殿 |

本年正月に併せて右記の方より各一對ご奉納頂きました。七月末日まで掲揚致します。

祭事報告

- ▼年越大祓 十二月三十日午後三時
- ▼元旦祭 一月一日午前零時
- ▼左義長 一月十五日午前十時
- ▼浄火祭 二月三日午前十時



昨年一年間に皆様方が御神前に奉納された金幣串や、自宅の神棚にお祀りされました紅白串又、願いを込めて奉納された祈願絵馬・帽子等が、宮司の手により「氏名・心願成就」と心を込めて祈念いたし、忌み火で以てお焚き上げを致しました。

とても寒い日ではありましたが夕刻まで参拝者は絶えませんでした。

- ▼祈年祭 二月二十日午後三時
- ▼御鍬神社例祭 三月十七日午後三時

▼例大祭 四月二日午後三時

今年の例大祭は昨年とは変わり、大変素晴らしい天候に恵まれ、神事は前日の氏子区域の子ども達による打ち囃しの奉納(試楽祭)を皮切りに、当日は早くから大勢の参拝者も繰り出し、子供御輿の御巡行・打ち囃しの奉納に演芸と境内は大賑わいです。午後には献幣使をお迎えし、三時より滞りなく祭典が行われ、午後七時には祭りを締めくくる、打ち囃しが勢いよく拝殿前で奉納され、日没と共に本年の例祭が終了いたしました。



- ▼南宮神社例祭 五月四日午後三時
- ▼お田植え祭 六月十一日午後三時
- ▼農休み祭 六月十九日午後三時

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
 女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず

平成17年厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和 40年	昭和 39年	昭和 38年
	25歳	昭和 57年	昭和 56年	昭和 55年
女子	33歳	昭和 49年	昭和 48年	昭和 47年
	19歳	昭和 63年	昭和 62年	昭和 61年

ご家族にまでも災禍が及び何かとまなならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。厄年に当る方は勿論のこと、厄年に当たらない方も、日々を平穩に過ごして頂くために一年に一度は厄祓いのご祈禱をお受けになりますよう、お勧めいたします。

敬神婦人会へどうぞ！

青葉若葉の輝きがひとときわ美しく映える季節となりました。

当会は御首神社の大神様のご神徳に感謝いたし、その恩恵に少しでも感謝の気持ちを表したいと、境内の清掃奉仕を中心に、会員相互の知識の向上と親睦に努めております。

同じ志をお持ちの方は年齢など関係なく是非ご入会下さい。 会長 杉崎 袈裟子



御首神社敬神婦人会 会則（抜粋）

【目的】本会は御首神社を信奉し奉仕活動を通して明るい社会作りに貢献すると共に、会員相互の知識向上と親睦を図る

【事業】本会は左記の活動を行う

- イ 毎月第二日曜日境内清掃奉仕を行う
 - ロ 清掃奉仕後、研修（勉強会）を行う
 - ハ 一年に一回、研修参拝旅行の実施
- ※ お問い合わせ先 御首神社社務所

郵送による祈祷申し込み方法

この申し込みは、本人或いは代理の方による神社への参拝が困難な場合にご利用頂き、【現金封筒】をお使い下さい。封筒には祈祷初穂料並びに左記の項目を記入して頂き、ご送付下さい。

記

- 一、申込者の住所・氏名・電話番号
 - 一、祈祷を受けられる方の住所・氏名・生年月日・電話番号
 - 一、祈祷の種類または内容・祈祷期間
 - 一、祈祷初穂料
 - 一、送付先の住所・宛名の指定など
- 尚、記載事項確認の為、申込者に確認させて頂く事もありますので、ご了承下さい。

祈祷種類

祈祷期間

初穂料

病氣平癒	当日	五千元
健康祈願	一ヶ月	八千元
入試合格	二ヶ月	一万二千元
勉学向上	三ヶ月	一万五千元
	六ヶ月	二万五千元
	一カ年	三万五千元

家内安全
交通安全
厄祓い
七五三

商売繁盛
事業繁栄
安産
満願御礼

各五千元

崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈祷致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になれますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。

寄稿のお願い

この度「みくびだより」に於いて参拝者をはじめ、社報をご覧の皆様のお声を掲載致したいと思っております。原稿用紙一枚〜二枚でテーマは御首神社に関するものであれば何でも結構ですので、お気軽に社務所までご連絡いただければ幸いです。

祭事案内

▼西宮神社例祭（相殿） 七月十七日午後三時
 ▼末廣稻荷神社例祭 八月七日午後三時



▼夏越大祓 八月七日午後三時半

今年八月七日午後三時半より境内にて夏越大祓を斎行いたします。

この神事は、半年間の生活で知らず知らずのうちに受け犯している罪・穢を人形に託して忌火にてお焚き上げし、災・厄を祓い清めて幸福を得んとするものです。

茅の輪をくぐることにより、一層身体が清められますので是非ともご参加下さい。

- ▼長寿祈願祭 九月十五日 午後四時
- ▼神明社例祭 十月十七日 午後三時
- ▼七五三参り 十一月一日～三十日
- ▼崇敬会大祭 十一月三日 午後三時
- ▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時

御首神社崇敬会設立二十周年記念 お木曳き奉仕の参加者募集

伊勢神宮では、来る平成二十五年に「第十二回神宮式年遷宮」が斎行されますが、その行事の一環として平成十八年に「お木曳き行事」が行われます。

この「お木曳き行事」は木曾の国有林から伐り出された御用材が伊勢まで運ばれ、木遣り音頭も勇ましく、内宮・外宮へ奉曳する行事であります。

当神社崇敬会では毎年五月に伊勢神宮参拝研修旅行を行っておりますが、来年は崇敬会発足二十年を迎えるに当たり、遷宮の伝統行事である「お木曳き行事」に一泊二日で参加する研修旅行を企画致しました。又と無い機会でありませので、是非ご参加頂きますようご案内申し上げます。



伊勢神宮式年遷宮

お木曳き行事参加要項(抜粋)

- 奉曳場所 伊勢神宮（外宮）
- 期 日 平成十八年五月二十七日（土）
二十八日（日）
- 参加資格 崇敬会会員に限ります（小学生以上）
- 募集人員 八十名（定員になり次第締め切らせて頂きます）
- 会 費 一万五千元（お一人様）
- 服 装 白丸首シャツ・白ズボン・白運動靴・白軍手

※詳しくは別紙参加要項をご覧ください。

編集後記

今回の「みくびだより」は従前の内容を幾らか変更致しました。更に今後に向けて目のところ暗中模索の状態ですが、次号からは日本神話にも触れ乍ら新しい構成でみなさまのお手元にお届けしたいと思っております。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の一
 TEL(〇五八四)九一―三七〇〇
 ホームページ www.mikubi.or.jp
 Eメール syamusyo@mikubi.or.jp